

栃木県現代俳句協会報

No. 179



第一七九号

発行所

〒337-0315
佐野市吉水駅南一五八水口方

栃木県現代俳句協会

発行人

中井 洋子

編集人

山野井 朝香

令和七年九月一日発行

「ジュニア俳句・ハイク」について

神 山 姫 余



「ジュニア俳句」という言葉から、多くの人が日本の子どもたちの俳句を思い浮かべるのではないだろうか。私も広島県内のある町で十九年前から、子ども俳句広場「ヒワちゃん俳句工房」

の管理人として現在進行形であるので、そこから見える日本の「ジュニア俳句」について書こうと思ったのだが、日本の「ジュニア俳句」についてはいろいろな方々が語っているのので、私は日本と外国の「ジュニア俳句・ハイク」について愚筆ながら書かせていただくことにした。

私がおもに目にする外国の子どもたちの「ハイク」は「世界こどもハイクコンテスト」で入賞した子どもたちの作品である。十五歳以下の子どもが対

象で毎回「テーマ」が定められ、A4サイズの紙に絵とハイクを書いて応募するのだが、日本の子どもの多くが、俳句的構図におさえてある一定の枠からでないようにつくっているのにたいして、外国の子どもたちの作品は、枠から大きくのびのびと自由に飛びだして、その全体、あるいはその一部分を切りとつたかたちで表現されている。また、それらの多くは三行で書かれている。四季が日本ほどはっきりしていないため、季語の意味することを感じとることが難しいことや、言語の違いから五・七・五という定型もなく、当然「や」「かな」「けり」といった言葉もない。また、外国人の多くの考え方としては、日本の俳句のように決まり事が多く自由を束縛するようなこと

とをあまり好まないため、決まり事といったものもなく、これを三行の短詩として自分たちにあつた自由な形で表現しているともいえるだろう。それが、純粹な子どもの目をおして眩しいくらい素直に表現されている。その違いが顕著にあらわれていて非常に興味深いのである。これらは、どちらが正しいという問題ではないことはみなさんご承知のとおりである。日本の「俳句」と海外の「ハイク」は別物なのである。今、日本の子どもたちの間では、AIで俳句をつくり、全国の俳句大会に応募することが広まりつつあるという。実際に、私も中学生の息子さんが、「クラスの子が、季語情報を入れAIに何句か俳句をつくらせ、その中からいいと思ったのを学校や俳句大会にだしているのに、自分で考えてつくる意味があるのか？時間がもったいない。」といつていたと、お母さんから聞いたことがあった。調べてみたら、「AIー茶君」なるものもあるらしい。日本では、教科書（紙）ではなく、タブレット等

によるデジタル教科書が推進される学習が進行している。一方でデジタル先進国の北欧では、学習や創造力の低下、健康の面から教科書を紙に戻している。便利で、簡単が、気づかぬうちに人間の様々な可能性や喜びを錆びつかせ、創作する苦しみからの喜びや高揚感など、創造力の欠落を生み出すのではないだろうか。それを真つ先に受けるのは、子どもたちなのである。そう考えると、私は「ジュニア俳句・ハイク」の未来に危機感を覚えずにはられないのである。

列島春秋

「現代俳句」令和六年掲載

一月号

ほどほどの未来を買い達磨市

二月号

窯変の碗の星空寒戻る

中村克子
和田浩一

三月号

鉦都とは遠き響きや花万朶 北山暁亀

四月号

かなしめばさういふ色の山桜

鯉沼桂子

五月号

雨粒に飾られ蜘蛛の巣の孤独

中田陽子

六月号

角打ちの枰酒溢る夕薄暑 小杉栄美子

七月号

クレマチス九十歳の朝帰り 田中房子

八月号

野に戻りさうな藜の畑かな 森本金一

九月号

戊辰戦争官軍之墓曼珠沙華 速水峰邨

十月号

稲の道正しく光る銅の町 あかがね 神山姫余

十一月号

三猿の真似して耳の冷たさよ

橋本尚子

十二月号

ふつふつと湧くかのごとき小米雪

斉藤絢子

第72回俳句研究会のご案内

諸家近詠

◇期 日 令和七年九月二十六日(金)

◇句会場 佐野市城山記念館

◇吟行地 佐野城跡、街中散策

◇受付開始 10時〜

◇投句締切 12時 嘱目三句

◇昼 食 各自

◇講 話 13時〜14時

講師 中村國司「私と俳句」

◇句 会 14時〜16時

◇会 費 五〇〇円

万葉の里・城山記念館

佐野市若松町504

☎0283-23-0728

・県西支部

山野井朝香 ☎0283-85-2039

・第一事業部

中村 國司 ☎080-1117-5751

鯉沼 桂子 ☎0282-43-0374

大 淵 久 幸

「死ぬまでは生きてください」赤とんぼ

ホワイト過ぎて退職卵の花腐しかな

お一人様三点限り海鼠食む

望遠鏡を覗くガリレオ小鳥来る

永遠のレモン石鹼万愚節

小川たか子

師走より忙しきものに幼の歩

雪雫真昼の星の行きどころ

壇上を麒麟のやうに卒業子

白昼のほつれより蝶生まれけり

種袋青空を呼ぶ音がする

原田 利江

教会の暗きより出ず白い著我

誰もいぬ暗き理科室羽化の音

自転車を追う三輪車息白し

炭窯の屋根傾きて露の臺

秋日和鏡を拭いて身をさらす

春の色一鉢選ぶ道の駅

靴洗ううなじの弛む春の風

母の日を母の服着て過ごし居り

三社祭年寄たちの目が光る

開拓の地形のままのレタス畑

鯉沼 桂子

遠富士をのせてふくらむ冬菜畑

落葉して幹の振れの黙深し

極月の日射し背中に鯉の黙

忘るとは軽くなること返り花

海遠き毛の国ナンバンギセル咲く

綱川 羽音

月さゆるうさは森に帰れない

ゴム長の親子浜千鳥の親子

手のひらにボンボンエール冬の虹

悠長なフランス語だね雲雀つて

春泥をきりんの蹄ばこぼこん

中田 陽子



第三十三回 現代俳句色紙展のお知らせ

※日 時 十月二十五日(土)～十月二十六日(日)

午前九時三十分 集合

※会 場 きららの杜とちぎ蔵の街学習館ギャラリー

※会員コーナー 『色紙・短冊』 一人二点まで

※特別コーナー 『須藤火珠男の俳句世界』

◆はがきで一句コーナー

色紙展に出品しない方のために、発表の機会を設けております。
多数のご参加をお待ちしております。
色紙展に出品する方もふるつてご参加ください。

※詳しくは実施要綱を参照

◇新入会員紹介

・畑中孝子(小山市) 推薦者 和田浩一

足元に聞せまりくる冬落暉

看とられしつもりが看とり庭桜

何の木と訪われしなんじゃもんじやの木

・高瀬かず枝(益子町) 推薦者 宮坂静生

たましひの色あらばこれ夜の梅

初茄子の夜明けの空の深さかな

白桃の毛細血管のくれなる

・黒崎 晶(野木町) 推薦者 石川和子

初夏の津軽三味線風興す

コスモスの風のたわむれ受け上手

裸木に夢二の猫の凭れおり

◇お知らせ

※令和七年七月十七日(木)、きららの杜とちぎ蔵の街学習館に於いて令和七年度第二回役員会が開かれました。



※次号180号の原稿〆切りは10月15日です。